

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 岡山県立矢掛高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>

☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫 \_\_\_\_\_）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒714-1201

岡山県小田郡矢掛町矢掛 1776-2

E-mail yakage@pref.okayama.jp

Website http://www.yakage.okayama-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 211 名 女子 218 名 合計 429 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、校訓「至誠力行」のもとで「地域からの学びを生かし一人一人の進路実現を目指すこと」を学校のミッションと考えている。その中で ESD は「持続可能な地域社会の形成者を育てるための教育」と捉えられ、ESD の実践を通して「地域から世界を見渡せる視点」と「地域から具体的な活動を起こせる行動力」を育成できるように努力している。地域、環境、国際の三つの柱に対して、①地域に関する学習活動、②環境に関する学習活動、③国際に関する学習活動を展開し、年度末にはそれらの活動を④全校生徒でシェアする機会を持っている。

### ① 地域に関する学習活動

普通科探究コース、普通科総合コース、地域ビジネス科の 3 つのコース（科）がある本校では、それぞれのコースに「地域」と関われる授業を展開している。探究コースでは地域課題を解決するためのコンテストに応募する授業（総合的な学習の時間）を、総合コースでは町と協定を結んでいる地域の 14 施設に毎週通い仕事のお手伝いをする「やかげ学」（学校設定教科）を、地域ビジネス科では地域の商店街とコラボしながら新しい特産品を考え出す「商品開発」の授業を、それぞれ展開している。また町の小・中・高校生で結成した「YKG60」という地域活動グループや、四季折々の町のお祭りへのボランティア参加など、地域に出て学びを広げる機会を多く設定している。

## ② 環境に関する学習活動

学校設定教科「環境」では、持続可能な自然環境と社会環境の在り方を考えるために「総合的な学習の時間」を活用し、自分自身の進路選択が持続可能な社会形成にどう関わっていくのかを自覚できるような進路学習のサポートをしている。具体的には1年生の秋に「ユネスコスクールE S D作文」への応募を目指して、自然環境問題や社会環境問題の知識を蓄えながら、自分の進路希望も明確にしていく。

また夏休みには少子高齢化問題や過疎問題に苦しむ島や山間部へ研修旅行・合宿を行い（白石島E S Dプログラム、真庭バイオマスツアーなど）、そこでの課題発見や先進的な取り組みを学ぶようにもしている（希望者参加）。

その他にも、サイエンス部では絶滅危惧種の「スイゲンゼニタナゴ」の飼育などにも力を入れている。

## ③ 国際に関する学習活動

岡山県には10のユネスコスクール高校があり、年に一度その10校は集合し「実践交流会」を行っている。この交流会では県内の高校の実践報告やワークショップが行われる他、海外のユネスコスクールの様子を知るために、留学生や研修生などを会に招き、国際理解を進めている。

また矢掛町においても田舎体験を岡山大学の留学生にしてもらうために、短期田舎留学を外国人学生にもらっており、そこでのコラボで国際理解学習も行うようにしている（希望者参加）。

## ④ 全校生徒でのシェア機会（YAKOアワード）

3コース（科）が並立する本校では、それぞれの学習活動をお互いに知り合うことが難しい。そこで年度末には「YAKOアワード」と称し、それぞれのE S D活動をプレゼンし合う機会を設けている。生徒、教員、来客の方々は、そのプレゼンを見て審査評価し投票する。一番支持率の高かった活動（プレゼン）が、その年の最も矢掛高校生らしい活動だということで表彰される。楽しみながらE S Dを理解し、今後の自分の活動アイディアも得ることができるイベントとなっている。



①地域系コンテスト



①地域実習 やかげ学



①商品開発



②白石島E S Dプログラム



③ユネスコスクール交流会



④YAKOアワード

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

コンテスト応募要項、町のパンフレット、矢掛町商店街マップ、矢掛町ホームページ、各地域資料など
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

各コースの特徴に応じて「総合的な学習の時間」、「やかげ学」（学校設定教科）、「商品開発」という授業で行っている部分と、休日や夏休みなどに希望者参加で行っている特別活動的な部分の両方がある。「環境科」という学校設定教科が中心になって、その授業やイベントの指導内容を開発しており、特に一年生段階では「環境科」のメンバーが各クラスの「総合的な学習の時間」に関われるように配慮し、「持続可能な社会の形成者」としての視点と行動力を共通の基盤として持てるように工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD活動がしだいに充実し活発化している最近の本校の流れの中で、教員サイドでは平成30年度から新たに「ESD課」という校務分掌を独立させ、学校全体のESD活動の舵取りができる体制を整えていくことにしている。また生徒サイドでは、「YAKOアワード」や「やかげ学発表会」、「環境CQ発表会」など、活動発表の場を多く持ちながら、お互いの活動を知り、評価し合い、学び合う体制を整えていっている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年度末には全校生徒に対して「ESD活動の振り返りアンケート」を行っている。このアンケート結果は、ESDの評価基準についての共同研究を行っている芝浦工業大学の中口教授にそのままお送りし、結果の分析を行っていただいている。平成27年度から継続して行っているこの評価分析によって、少しずつESDの効果とその原因の関係なども明らかになっている。また教職員に関しても同じようなアンケートを採り、ESD領域で活躍できる教員の資質などの研究も行っている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校のホームページに「ESD」のコーナーを設けたり、本校のESD活動を毎月の矢掛町広報誌の裏表紙で掲載させてもらったり、地元ケーブルテレビや地元新聞にニュース素材を積極的に提供させてもらったり、町の教育委員会と協力して小・中・高校教育が連動した教育企画を立てさせていただいたりすることで、地域住民の理解を次第に得られるようになってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

学生コンテストの応募先の団体(自治体や大学など)、「やかげ学」でお世話になっている町の14施設(保育所、小学校、高齢者福祉施設、図書館、美術館、農業体験施設)、商品開発を一緒に行っている町の商店街、ESD系のフォーラムを活用させていただいている団体、地域おこし協力隊、岡山県ユネスコスクール10高校、地域活性化案を共同で実現しようとしてくださる矢掛町役場など、ESD活動を展開していく中で関係が出来てきた団体とは継続的な共同活動が続いている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

毎年秋に開催される「岡山県ユネスコスクール実践交流会」では、県内のユネスコスクールとの情報交換が行われ、また国外のユネスコスクールの生徒や留学生を招いて国際理解を進める活動が行われている。

また今年度に関して言えば、愛媛県のユネスコスクールである「新居浜南高校」との相互学校訪問(教員)が実現し、お互いのESD活動の様子を現場に行き行って学び合うことも出来た。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

「学校教育から地域社会を変えてゆく」という視点で見た場合、「やかげ学」によって地域の働き手としての意識を生徒が持つことで地域の担い手育成に貢献していくことはもちろんのこと、商品開発や地域コンテストへのチャレンジを続けることで、地域に新たなイノベーションの機会を生み出す可能性も大きくなっている。例：第一回岡山イノベーションコンテスト・高校の部大賞「神楽イノベーション」（「備中神楽」をインバウンド観光の目玉に据えた町の活性化プランを今現在本校生徒が実現しつつある）

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

一年間を通じた授業として、学生コンテストへの応募（探究コース）、町内での実習が行われる「やかげ学」（総合コース）、商店街との協働による「商品開発」（地域ビジネス科）が行われる他に、春には全校生徒を対象にした「ESD講演会」、夏には希望者を対象にした「白石島ESDプログラム」「地域課題解決型先進地域視察」、秋には希望者対象の「岡山県ユネスコスクール実践交流会」「宿場祭りボランティア」、冬には希望者対象の「山ノ上干し柿祭りボランティア」「YAKOアワード」など、毎年の恒例ESD行事が同じように継続的に行われる予定である。

また、町の小・中・高校生で結成されている「YKG60」という地域おこしグループに対しては、活動が行われるごとに希望者を募り、そのサポートを行いながら生徒の学びの過程を把握していく予定である。